

(3) 公認パラスポーツ指導員基準カリキュラム

1) 公認初級パラスポーツ指導員養成講習会（21.0時間以上）

領域	講習科目	内容	時間	
人間力	思考判断	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。	1.5
		パラスポーツの意義と理念	障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。	1.5
	態度行動	コミュニケーションスキルの基礎（※演習含む）	公認パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する。	1.5
		障がいのある人との交流（※実技、実習可）	スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけるなど、障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。	1.5以上
		パラスポーツ推進の取り組み	資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等へ積極的に関わられるように、地域のパラスポーツ振興の現状について学ぶ。	1.5
		パラスポーツに関する諸施策	わが国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）およびパラスポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ基本計画など）について学ぶ。	1.5
	知識技能	共通	安全管理	スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など）
専門		各障がいの理解	各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 <身体障がい3時間（肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がい、内部障がいを含む）、知的障がい（発達障がいを含む）1.5時間、精神障がい1.5時間>	6以上
		各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（※実技）	障がいのある人が、スポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫の仕方や、指導員としての留意点・接し方について実技を通して学ぶ。	3以上
		全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要および大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者へのスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。	1.5
時間数			21時間以上	

2) 公認中級パラスポーツ指導員養成講習会（57.0時間以上）

領域	講習科目	内容	時間	
人間力	思考判断	スポーツの意義と価値（※演習含む）	3	
	態度行動	公認パラスポーツ指導員としてのキャリア形成（※演習含む）	3	
		地域におけるパラスポーツ振興	1.5	
知識技能	共通	身体の仕組みと体力づくり	3	
		救急処置法（※実技）	3	
		リスクマネジメント	1.5	
		スポーツ心理学 I	1.5	
	専門	障がい各論	12以上	
		障がい者のスポーツ指導における留意点	4.5	
		全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（※実技）	12	
		全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義	1.5	
		全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分	3	
		全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割	1.5	
		補装具の理解	1.5	
		発育・発達に応じた指導法	3	
		最重度の障がい者のスポーツの実際（重症心身障がい児・者を含む）（※見学・実技可）	1.5	
		時間数		57時間以上

3) 公認上級パラスポーツ指導員養成講習会（45.5時間）

領域	講習科目	内容	時間	
人間力	思考判断	プレゼンテーション能力	他者の意見を「聴く」、自身の意見を「伝える」際のポイントについて確認する。（講習会開始前のオリエンテーション含む）	1
	態度行動	地域におけるパラスポーツの課題 （※演習含む）	地域におけるパラスポーツの課題をグループ単位で話し合い発表する。また、その課題について協議し問題解決策を見出す。 <自身の地域のスポーツ推進計画を事前に調べ、発表する>	6
		スポーツ界の最新情報	最新のスポーツ界を取り巻く諸問題について学ぶ。	2
知識技能	共通	事故などのトラブルの対処法	事故が起きた際の初動、言動、対応の仕方について、問題拡大を未然に防ぐ配慮と方法（法的責任や保険）について学ぶ。パラスポーツ活動現場での要望・相談など事例について学ぶ。	3
		スポーツ心理学Ⅱ	競技者の心理と指導者としての効果的なアプローチについて学ぶとともに、事業をすすめる上で大切な「リーダーシップ」や「チームビルディング」について学ぶ。	4
		指導案の作成と検証Ⅰ・Ⅱ	障がいの種類や程度または実施環境などを考慮し、安全かつ対象者の目的に合わせた指導案の作成手順・ポイントについて学ぶ。また、実践（発表）を通して、指導案や実施内容に含まれる問題点・改善点を抽出するなど、内容の検証を行う。	6
	専門	スポーツと栄養	スポーツに必要な身体づくりのためのエネルギーと栄養摂取の方法について学ぶ。年齢、性別に応じた身体づくりのための栄養摂取を理解する。	2
		全国障害者スポーツ大会 選手団のマネジメント	全国障害者スポーツ大会の選手団結成から大会終了後までの一連の動きについて学ぶ。選手団の役員として大会をマネジメントするうえでの総合的な知識を学ぶ。	1.5
		わが国のスポーツ施策と パラスポーツ	わが国のスポーツ施策について、これまでのあゆみと現状について学ぶとともに、パラスポーツに関わる施策について理解する。	2
		スポーツ事業の企画運営の 実際 （※演習含む）	地域におけるパラスポーツ事業の企画から運営までの実施計画をグループ単位で立案・発表（プレゼンテーション）し、効果的な企画・運営の仕方を学ぶ。	6
		高齢者とスポーツ	高齢障がい者の特性を理解するとともに、実際に行われているスポーツを事例に出しながら、その意義や指導上の留意点を学ぶ。	2
		女性とスポーツ	女性の身体的な発育・発達と競技パフォーマンスの関連性やライフスタイルの変化と運動習慣の関連性について学ぶ。	2
		スポーツ傷害・障害の 予防と管理	障がい者がスポーツをする際に起こりやすい怪我や二次的障害の実際とその予防法を学ぶ。	2
		スポーツ実技 （※実技）	地域で行われているスポーツの体験を通してルールや用具に関する工夫・配慮について学び、実際に種目を作成する。	4
		パラスポーツの 歴史と現状	国内外のパラスポーツの歴史的経過を学び、日本パラスポーツ協会のビジョンを通して現在の状況や展望について学ぶ。	2
	時間数			45.5 時間

4) 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者対象 公認中級パラスポーツ指導員養成講習会 (29.5時間以上)

領域	講習科目	内容	時間
医療	障がい各論	障がいに留意した指導ができるよう、各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学ぶ。 <脊髄損傷・切断・関節障がいその他機能障がい(2.5h) 脳原性麻痺 (CP,CVA) (1.5h)、視覚障がい (1.5h) 内部障がい (1.5h)、聴覚障がい (1.5h) 知的障がい (発達障がい含む) (1.5h)、精神障がい (1.5h)>	11.5 以上
パラスポーツ	パラスポーツ概論	我が国のパラスポーツの歩み、日本パラスポーツ協会の取り組みを通じて、パラスポーツの意義、その現状について学ぶ。また一般スポーツとの施策やスポーツ環境の違いを理解するとともに、パラスポーツの課題や現状を学ぶ。	2
	全国障害者スポーツ大会の概要	大会がスポーツ未経験者や初心者の方のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解するとともに、一般競技とは異なる点や開催目的、参加資格、競技規則の成り立ち、実施競技、障害区分等について学ぶ。	2
	補装具の理解	補装具の種類や特徴を学ぶとともに、指導者として最小限知っておくべき事柄やスポーツ指導現場での留意点を理解する。(義肢、装具、車いす、杖など)	1.5
	地域でのパラスポーツの取り組み	パラスポーツの実施例、課題等の紹介を通じ、実際に地域で行われている活動を学ぶ。その内容をふまえ、障がい者がスポーツに参加することを想定した指導案の作成、または地域の中で障がい者が一緒に楽しめる教室やイベントの企画立案など、プログラムを作成する。	3
	障がい者にとってのスポーツの価値	障がい者の実体験に基づく話を聞き、障がい者にとってのスポーツの価値について理解を深める。	1.5
実技・実習	車いすとスポーツ	車いすを使用したスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、準備運動、起こりやすいケガとその予防法、車いす介助法などについても学ぶ。	2
	視覚障がい者とスポーツ	視覚障がい者が行うスポーツの体験をとおして種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法(手引)やコーチング(方向指示・言葉かけを含む指導)の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	脳原性麻痺者とスポーツ	脳原性麻痺者が行うスポーツの体験を通して種目の楽しさやルールを学ぶ。また対象者の麻痺の状況を留意し、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	障がい特性に応じた水泳への導入法	障がい者がプールに入る際の更衣室内の配慮、入退水から水中でのサポート方法など、指導の際の安全確保について障害別症例により留意点を学ぶ。また、片側麻痺や視覚障がいの疑似体験による水中歩行や泳ぎ方についても実際に行い、障がい者にとっての水の効用や障がい特性に応じた浮き身や立ち方の指導法などの実践力を身につける。	2
レポート	活動実績報告	パラスポーツに関わるきっかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域でのパラスポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後 作成 提出
備考	講習会の中で、グループワークやアクティブラーニングを通じてコミュニケーション能力の向上をめざす。		

5) 公益社団法人日本理学療法士協会会員理学療法士対象 公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(29.5時間以上)

領域	講習科目	内容	時間
医療	障がい各論	各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学び、障がいに留意した指導が不可欠であることを学ぶ。 <視覚障がいの概要(1.0h) 聴覚障がいの概要(1.0h) 知的障がいの概要(1.5h) 精神障がいの概要(1.5h)>	5 以上
体育学	スポーツの意義と価値 (※演習を含む)	スポーツが本来もつ、身体的・文化的・社会的な意義や価値について学ぶ。また、障がい者にとってのスポーツの意義と価値についても学ぶ<演習：スポーツのインテグリティについて話し合う>	1.5
	スポーツ心理学	スポーツ場面における選手の心理状況を学び、指導者として効果的な心理的アプローチの方法について学ぶ。	1.5
	トレーニングの基礎知識	各種トレーニングの特徴を理解し、障がいに留意したトレーニングプログラムの組み立て方や実施上の留意点について学ぶ。	1.5
パラスポーツ	パラスポーツと理学療法士	理学療法士として、パラスポーツの造詣を深めるとともに、関わる意義やその方法について学ぶ。また、公認パラスポーツ指導者制度の概要を学び、指導者の役割についても学ぶ。	1.5
	地域におけるパラスポーツ振興	パラスポーツに関わる諸団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。	1.5
	全国障害者スポーツ大会の概要	我が国のパラスポーツを知る上でその歴史的な背景も含め、全国障害者スポーツ大会の概要を学ぶ。	1.5
	全国障害者スポーツ大会の障害区分	全国障害者スポーツ大会の障害区分を正しく理解し、障害区分を判定する際の留意点等を学ぶ。	1.5
	障がい者のスポーツ指導上の留意点と工夫	各障がいに応じた指導の事例を通して指導上の留意点(リスク管理含む)について学ぶ。	2
実技・実習	視覚障がい者のスポーツ実習	視覚障がい者が行うスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法(手引)やコーチング(方向指示・言葉かけを含む指導)の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	補装具(スポーツ用)を用いたスポーツ実習	スポーツ用の車いすや義足などを使用したスポーツ体験を通してその種目の楽しさや技術・ルールを学ぶとともに、起こりやすいケガとその予防法についても学ぶ。	2
	重度障がい者のスポーツ実習	重度障がい者が行っているスポーツ、レクリエーションの体験と様々な創意工夫の実例を紹介し、障がい者が重度であってもスポーツを楽しむことができることを体験する。	2
	全国障害者スポーツ大会実施競技の実習	全国障害者スポーツ大会の実施競技を体験する中で、その競技の特性やルールについて理解を深め、障がい者がスポーツを実施する際の指導上の留意点についても学ぶ。(他実習の時間と実施競技が重ならないようにする)	6 以上
レポート	活動実績報告	パラスポーツに関わるきっかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域でのパラスポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後 作成 提出
備考	講習会の中で、グループワークやアクティブラーニングを通じてコミュニケーション能力の向上をめざす。		

6) 学校教員（保健体育）対象 公認中級パラスポーツ指導員養成講習会（29.5時間以上）

領域	講習科目	内容	時間
医療	障がい各論	障がいに留意した指導ができるよう、各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学ぶ。 <脊髄損傷・切断・関節障がいその他機能障がい(2.5h) 脳原性麻痺（CP,CVA）(1.5h)、視覚障がい（1.5h） 内部障がい（1.5h）、聴覚障がい（1.5h） 知的障がい（発達障がい含む）(1.5h)、 精神障がい（1.5h）>	11.5 以上
パラスポーツ	パラスポーツ概論	我が国のパラスポーツの歩み、日本パラスポーツ協会の取り組みを通じて、パラスポーツの意義、その現状について学ぶ。また一般スポーツとの施策やスポーツ環境の違いを理解するとともに、パラスポーツの課題や現状を学ぶ。（スポーツのインテグリティを含む）	2
	全国障害者スポーツ大会の概要	大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解するとともに、一般競技とは異なる点や開催目的、参加資格、競技規則の成り立ち、実施競技、障害区分等について学ぶ。また、選手が使用する補装具の種類や役割について理解する。	2
	地域におけるパラスポーツ振興	児童・生徒の在学中および卒業後を含む一生涯のスポーツ活動がイメージできるように、地域のパラスポーツに関わる諸団体や関係所管について理解し、それらが連携することの必要性について学び、学校と地域をつなぐ役割を担えるようにする。	1.5
	学校教育におけるパラスポーツ	学校でのパラスポーツの導入や展開方法について事例等を通じて学び、障がいの有無に関わらず生徒が楽しめるスポーツプログラムや環境作りについて考える。また、演習を通じてインクルーシブ体育の実践方法を考える。（演習例：障がいのある児童・生徒とない児童・生徒と一緒にスポーツを楽しむためにどのようにプログラムを工夫して準備、対応できるか）	3
	障がい者にとってのスポーツの価値	障がい者の実体験に基づく話を聞き、障がい者にとってのスポーツの価値について理解を深める。	1.5
実技・実習	車いすとスポーツ	車いすを使用したスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、準備運動、起こりやすいケガとその予防法、車いす介助法などについても学ぶ。	2
	視覚障がい者とスポーツ	視覚障がい者が行うスポーツの体験を通して種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法（手引）やコーチング（方向指示・言葉かけを含む指導）の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	脳原性麻痺者とスポーツ	脳原性麻痺者が行うスポーツの体験を通して種目の楽しさやルールを学ぶ。また対象者の麻痺の状況を留意し、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2
	障がい特性に応じた水泳への導入法	障がい者がプールに入る際の更衣室内の配慮、入退水から水中でのサポート方法など、指導の際の安全確保について障害別症例により留意点を学ぶ。また、片側麻痺や視覚障がいの疑似体験による水中歩行や泳ぎ方についても実際に行い、障がい者にとっての水の効用や障がい特性に応じた浮き身や立ち方の指導法などの実践力を身につける。	2
レポート	活動実績報告	パラスポーツに関わるきっかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域でのパラスポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後 作成 提出
備考	講習会の中で、グループワークやアクティブラーニングを通じてコミュニケーション能力の向上をめざす。		